

授業科目	がん看護学特論 I Advanced Cancer Nursing I		1 学年	前期	選 択 が ん 看 護 CNS 必須	30 時間	2 単位	
担当教員	【氏名】 ◎石田 和子 酒井 禎子 樺澤三奈子 河野 英子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上 同上	【氏名】 神田 清子 小暮 敏明 柏木 夕香	【所属】 高崎健康福祉大学 群馬中央病院 和漢診療部長 新潟県立がんセンター新潟病院 がん看護専門看護師				
【到達目標】 がん医療やがん看護・緩和ケアの動向を理解するとともに、がん患者のたどる経過（診断、インフォームドコンセント、集学的治療、社会復帰と在宅療養、End of Life Care）に沿って必要となる身体管理・看護ケアの概要について理解する。								
【授業概要】 がん医療の動向や政策とがん看護の特徴をふまえ、治療の選択における意思決定支援、手術療法、化学療法、放射線療法を行う患者へのケア、全人的苦痛に対する緩和ケア・End of Life Care といったがん看護の基本的知識について学習する。がん看護・緩和ケア領域の実践・研究・教育に関する国内外の文献抄読を通して最新情報を習得し、討議を行いながらがん看護専門師に求められる役割や今後の課題についての考察を深めていく。								
【授業計画】								
回数	授業形態	学習課題	学習内容		備考			
1	講義	がん医療の動向と政策	日本のがん医療の動向と政策（がん対策基本法など）		石田			
2	講義	インフォームドコンセントと看護支援	がん看護におけるインフォームドコンセントと専門職としての在り方		石田			
3	講義	QOL を高めるケア(1)	トータルペインと専門看護師の役割 身体的苦痛とマネジメント		石田			
4	講義	QOL を高めるケア(2)	心理・精神的・スピリチュアル・ペインとマネジメント		酒井			
5	講義	がん治療と看護（1） ：手術療法	がんの手術療法と看護ケアの概要		石田			
6	講義	がん治療と看護（2） ：化学療法	がんの化学療法と看護ケアの概要		石田			
7	講義	がん治療と看護（3） ：放射線療法	がんの放射線療法と看護ケアの概要		樺澤			
8	講義	End of Life Care と緩和ケア	緩和ケア・End of Life Care の概念、トータルペインと QOL を高めるアプローチ、終末期医療の動向、日本の文化における死		酒井			
9	講義	Advance Care Planning(ACP)と意思決定	アドバンスケアプランニングの概要と実際		酒井			
10	講義	集学的治療とチームアプローチ	集学的治療の基本的理解とがん医療におけるチームアプローチ		樺澤			
11	講義	がん患者・家族への生活再構築の支援	がんに関連した医療制度や社会資源の活用		柏木			
12	講義	在宅がんケア	在宅がん患者の継続ケアシステムの構築と課題		川野			
13	講義	支持療法における漢方薬の位置づけ	緩和ケアと漢方		小暮			
14			有害事象による末梢神経症状					
15	講義	専門看護師の実践活用(1) 文献の活用と批判	専門看護師として実践能力の向上： がん化学療法		神田			
16	講義	専門看護師の実践活用(2) 文献の活用と批判	専門看護師として実践能力の向上： 緩和ケア		神田			
17	講義	がん患者の家族ケア	がん患者の家族の体験の特徴と看護		酒井			

18	演習	課題発表・評価	今後の展望（課題）	石田
<b>【評価方法、評価基準】</b> 授業参加状況 20% ディスカッション 30% レポート 50%				
<b>【テキスト】</b> 必要に応じてその都度提示する。				
<b>【参考書・資料等】</b> 特に指定しない。				
<b>【受講、課題、資料配布等のルール】</b> 講義内容に応じてディスカッションを行う。				
<b>【教員からのメッセージ】</b>				
<b>【オフィスアワー】</b>				

授業科目	がん看護学特論Ⅱ Advanced Cancer NursingⅡ		1 学年	前期	選 択 が ん 看 護 CNS 必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎石田 和子 酒井 禎子 樺澤三奈子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上	【氏名】	【所属】			
【到達目標】 がんにより苦痛を体験している人々および家族の特徴について理解を深め、質の高い看護を実践するための基盤となる概念と理論を理解する。							
【授業概要】 がん看護・緩和ケア領域で主となる概念・理論（症状マネジメントモデル、ストレス・コーピング、喪失・悲嘆、危機、スピリチュアルペイン、セルフケア、QOL、家族）について、講義および国内外の文献抄読により理解するとともに、これらの理論を活用した事例検討を行い、がん看護・緩和ケアにおける理論活用の実際について修得する。							
【授業計画】							
回数	授業形態	学習課題	学習内容		備考		
1	講義	がん看護における理論：必要性とその活用法	がん看護において活用できる理論の概要		石田		
2	講義	がん患者の症状マネジメントモデル（1）	症状マネジメントに活用できる理論と事例への適用		石田		
3	講義	がん患者の症状マネジメントモデル（2）					
4	講義	ストレスコーピング、喪失・悲嘆・危機・適応理論（1）	がん看護におけるストレスコーピング、喪失・危機理論と事例への適用		酒井		
5	講義	ストレスコーピング、喪失・悲嘆・危機・適応理論（2）					
6	講義	スピリチュアルペインに関する理論（1）	村田理論と事例への適用		石田		
7	講義	スピリチュアルペインに関する理論（2）					
8	講義	がん患者のセルフケアに関する理論（1）	エンパワメント、ヘルスプロモーション、自己効力理論などのがん患者のセルフケアに活用できる理論と事例への適用		樺澤		
9	講義	がん患者のセルフケアに関する理論（1）					
10	講義	Quality of Life の概念と研究の動向	がん医療・看護における Quality of Life の概念と研究の動向		酒井		
11	講義	家族支援に関する理論（1）	がん患者の家族の体験の特徴、家族ケアに活用できる理論と事例への適用		酒井		
12	講義	家族支援に関する理論（2）					
13	講義	がん看護における理論の活用	既習の理論を用いた事例の分析とディスカッション		石田		
14	講義	がん看護における理論の活用	既習の理論を用いた事例の分析とディスカッション		石田		
15	講義	がん看護における理論の活用	既習の理論を用いた事例の分析とディスカッション		石田		
16	演習	理論を活用した事例検討（1）	がん患者に適応できる理論活用についてディスカッション		石田、酒井、樺澤		
17	演習	理論を活用した事例検討（2）					
【評価方法、評価基準】 授業参加状況 20%・プレゼンテーション 30%、レポート 50%							

**【テキスト】**

必要に応じて提示

**【参考書・資料等】**

**【受講、課題、資料配布等のルール】**

がん看護における理論の活用について学んだことを活かし事例を踏まえてプレゼンテーションし討議する。

**【教員からのメッセージ】**

**【オフィスアワー】**

授業科目	がん看護学特論Ⅲ Advanced Cancer Nursing Ⅲ		1・2 学年	前期	選 択 がん看護 CNS 必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎石田 和子 境原三津夫 古澤 弘美 末山 博男	【所属】 新潟県立看護大学 同上 上越地域医療センター病院 上越総合病院	【氏名】 今井 洋介 石田 卓士 金子 和弘 武藤 一朗	【所属】 新潟県立がんセンター新潟病院 新潟県立中央病院 同上 同上			
【到達目標】 複雑な問題を持つがん患者に対する高度な看護実践のために、がん看護専門看護師としての視点で、対象理解、アセスメント、看護実践に必要ながん病態生理学の基礎知識を理解する。							
【授業概要】 がん病態生理、発がん予防、診断、がん治療、がんに伴う諸症状の病態生理とアセスメント、主ながん疾患の病態生理、緊急症状とその対処方法について学習する。がん看護・緩和ケア・がん化学療法領域における病態生理学を通してアセスメント能力を修得し、がん看護専門看護師に求められる役割について考察を深めていく。							
【授業計画】							
回数	授業形態	学習課題	学習内容			備考	
1	講義	がんの疫学・治療 進展、浸潤、転移とがんの診断過程と診断方法				今井	
2	講義						
3	講義	がん登録と地域ネットワーク				古澤	
4	講義	がん治療の基本と最新の動向	①放射線療法			末山	
5	講義	がん治療の基本と最新の動向	②造血幹細胞移植			今井	
6	講義	主ながん疾患の病態生理と治療	①肺がん			石田(卓)	
7	講義	主ながん疾患の病態生理と治療	②食道・胃・大腸がん			金子	
8	講義	主ながん疾患の病態生理と治療 ③白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・原発不明がん				今井	
9							
10	講義	主ながん疾患の病態生理と治療	④肝臓・膵臓がん			青野	
11	講義	主ながん疾患の病態生理と治療	⑤乳がん			武藤	
12	講義	主ながん疾患の病態生理と治療	⑥前立腺がん			片桐	
13	講義	主ながん疾患の病態生理と治療	⑦婦人科がん			境原	
14	講義	オンコロジックエマージェンシーと対処法：アナフラキシー、電解質異常敗血症ショック				境原	
15	講義	病態生理学を踏まえた、がん患者の総合的アセスメントの探求				石田	
【評価方法、評価基準】 授業参加状況 20%・プレゼンテーション 30%、レポート 50%							
【テキスト】 教科書は指定しない。参考書および文献はその都度紹介する。							
【参考書・資料等】 事例検討など事前に各自、提示する資料を作成し人数分の資料を学生が準備する。							
【受講、課題、資料配布等のルール】 事例検討など事前に各自、提示する資料を作成し人数分の資料を学生が準備する。							
【教員からのメッセージ】							
【オフィスアワー】							

授業科目	がん看護学特別演習 I Seminar of Cancer Nursing I		1・2 学年	前期	選 択 がん看護 CNS 必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎石田 和子 酒井 禎子 田口 玲子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上	【氏名】 樋口 伸子 横川史穂子 丸山 美香	【所属】 新潟県立中央病院 長野市民病院 新潟県立がんセンター新潟病院 がん看護専門看護師 がん看護専門看護師 がん看護専門看護師			
【到達目標】 がんがもたらすあらゆる苦痛症状および苦悩を包括的に理解し、エビデンスに基づいて適切なケアとケアを統合して提供する能力を修得する。							
【授業概要】 がんの進展・治療に伴う苦痛症状のアセスメントとマネジメント技術を、薬物療法、理学療法的介入、心理的な支援、リソースの活用などを含めた包括的な視点から展開するとともに、End of Life Care や家族の悲嘆に対する効果的な援助を探究するために、国内外の文献講読とその批判的吟味や事例の検討を通して学ぶ。また、心理社会的ケアの一環としてのグループ療法や相談支援技術について学習する。そして、エビデンスに基づいた患者のアセスメントと臨床判断・実践能力、およびがん看護専門看護師としての能力（実践・相談・調整・倫理調整・教育）を養う。これらは、学生主体のプレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。							
【授業計画】							
回数	授業形態	学習課題	学習内容	備考			
1	演習	緩和ケアにおけるがん看護専門看護師の活動：緩和ケアにおける CNS の活動と役割	実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究	石田			
2	演習	トータルペインの症状マネジメント技術の探究(1)身体症状を呈する患者の支援(がん性疼痛・呼吸困難・倦怠感)	(1)～(3)の症状に対する効果的な援助技術に関する文献を用いた事例検討とディスカッション	樋口 石田			
3	演習	トータルペインの症状マネジメント技術の探究(2)うつ・せん妄を呈する患者のアセスメントと支援		樋口 石田			
4	演習	トータルペインの症状マネジメント技術の探究(3)スピリチュアル・ペインへの支援		丸山 酒井			
5	演習	End of Life Care と家族のグリーフワーク		丸山 酒井			
6	演習	手術療法に伴う機能・器質的变化に対するセルフケア	リンパ浮腫。ボディイメージの変容への支援	石田			
7	演習	がん患者・家族への緩和ケア療養の場を移行する患者の意思決定支援と退院調整	がん看護相談の役割 (コミュニケーションとカウンセリング技術)	横川 石田			
8	演習	がん患者・家族へのケア 終末期がん家族の悲嘆に対するケアの探究					
9	演習	がん患者へのグループ療法(1)	グループ療法の理論と方法、ファシリテーターの役割	酒井			
10	演習	がん患者へのグループ療法(2)					
11	演習	症状緩和技術演習(1)	呼吸法、筋弛緩法、マッサージなど緩和ケアに必要な術を修得する	田口			
12	演習	症状緩和技術演習(2)					

13	演習	QOL を高める緩和ケア：がん看護専門看護師として倫理問題の解決法	事例検討	石田
14	演習	QOL を高める緩和ケア：がん看護専門看護師として倫理問題の解決法	事例検討	石田
15	演習	QOL を高める緩和ケア：がん看護専門看護師として症状マネジメント	事例検討	石田
16	演習	QOL を高める緩和ケア：がん看護専門看護師として症状マネジメント	事例検討	石田
17	演習	QOL を高める緩和ケア：がん看護専門看護師としてスピリチュアルケアへの介入	事例検討	石田
18	演習	QOL を高める緩和ケア：がん看護専門看護師として意思決定（療養の場など）	事例検討	石田
19・20	演習	緩和ケアの課題と支援の探求	1 回から 18 回の学びをふまえて、緩和ケアにおける「がん看護専門看護師に求められる役割と課題」についてディスカッション	石田 酒井

**【評価方法、評価基準】**

レポート 50%、プレゼンテーション 30%、課題分析能力 20%を総合的に判断する。

**【テキスト】**

必要に応じて提示する。

**【参考書・資料等】**

必要に応じて提示する。

**【受講、課題、資料配布等のルール】**

事例検討においては事前に必要な資料は配布する。

**【教員からのメッセージ】**

**【オフィスアワー】**

授業科目	がん看護学特別演習Ⅱ Seminar of Cancer Nursing Ⅱ		1・2 学年	前期	選 択 が ん 看 護 CNS 必修	30 時間	2 単位	
担当教員	【氏名】 ◎石田 和子 酒井 禎子 樺澤三奈子  西村 香 長崎 陽子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上  新潟県立がんセンター新潟病院 がん看護専門看護師 同上	【氏名】 上野恵美子  三浦一二美  大野 綾	【所属】 長野赤十字病院 がん看護専門看護師 長岡中央病院 がん看護専門看護師 瀬田クリニック東京 がん看護専門看護師				
【到達目標】 がん薬物療法の有害事象の予防・早期発見・早期対処を行い、治療の継続および治療中の生活の質を高めるために必要なアセスメントとエビデンスに基づく看護援助方法や教育技法を修得する。								
【授業概要】 がん薬物療法の薬理的知識、有害事象の身体的・心理的・社会的アセスメントと症状マネジメント、意思決定支援、セルフケア能力向上のための方略と教育的技法について、国内外の文献講読とその批判的吟味や事例の検討、臨地演習を通して学ぶ。そして、エビデンスに基づいた患者のアセスメントと臨床判断・実践能力、及びがん看護専門看護師としての能力（実践・相談・調整・倫理調整・教育）を養う。これらは、学生主体のプレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。								
【授業計画】								
回数	授業形態	学習課題	学習内容		備考			
1	演習	がん薬物療法におけるがん看護専門看護師の活動	がん化学療法における総合的アセスメント		石田			
2	演習	最新の外来化学療法看護	外来化学療法における看護師の役割		長崎			
3	演習	最新の外来化学療法看護			石田			
4	演習	集学的治療の背景とチームアプローチ	看護の役割		樺澤			
5	演習	がん化学療法を受ける患者の有害事象の予防と早期発見	化学療法実施におけるシステム・アセスメントと看護		樺澤			
6	演習	有害事象の症状マネジメントとセルフケア支援の探究（1） 嘔気・嘔吐	（1）～（7）の有害事象に対する効果的なケアに関する文献を活用し事例検討とディスカッション		西村 石田			
7	演習	有害事象の症状マネジメントとセルフケア支援の探究（2） 骨髄抑制			西村 石田			
8	演習	有害事象の症状マネジメントとセルフケア支援の探究（3） 口内炎			上野 石田			
9	演習	有害事象の症状マネジメントとセルフケア支援の探究（4） 消化器症状（下痢・便秘）			上野 石田			
10	演習	有害事象の症状マネジメントとセルフケア支援の探究（5） 脱毛・皮膚障害			三浦 石田			
11	演習	有害事象の症状マネジメントとセルフケア支援の探究（6） 末梢神経障害			三浦 石田			
12	演習	有害事象の症状マネジメントとセルフケア支援の探究（7） 倦怠感			樺澤			



13	演習	化学療法における安全管理	抗がん剤曝露対策	石田
14	演習	最新の治療と看護の実際	免疫療法を受ける患者の看護の実際	大野 石田
15	演習	最新の治療と看護の実際		
16	演習	化学療法をうけるがん患者・家族への意思決定支援	化学療法を行う患者の事例検討	石田
17	演習	化学療法をうけるがん患者・家族へのセルフケア支援		
18	演習	化学療法における看護師への教育支援	専門看護師として教育技法を学ぶ。	石田
19	演習	化学療法看護の課題と支援の探求	1回から14回の学びをふまえて、がん薬物療法看護における「がん看護専門看護師に求められる役割と課題」についてディスカッション	石田 樺澤
20				

**【評価方法、評価基準】**

レポート 50%、プレゼンテーション 30%、課題分析能力 20%を総合的に判断する。

**【テキスト】**

必要時提示する。

**【参考書・資料等】**

必要時提示する。

**【受講、課題、資料配布等のルール】**

**【教員からのメッセージ】**

**【オフィスアワー】**

授業科目	がん看護学特別演習Ⅲ Seminar of Cancer Nursing Ⅲ	1・2 学年	後期	選 択 が ん 看 護 CNS 必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎石田 和子 酒井 禎子 樺澤三奈子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上	【氏名】	【所属】		
【到達目標】 がん看護に関する課題を把握し、文献クリティークを行う。がん看護相談、グループ看護相談、地域のがん看護相談など実践を通じて深めた研究課題について文献を購読し各自の研究の意義と目的を明確にする。さらになん専門看護における能力の開発を行う。						
【授業概要】 演習 がん看護に携わる看護師に必要なコミュニケーション能力の開発、身近な看護実践に関する文献購読、課題に対する文献購読を行う。文献の批判的に吟味を学生主体の討議とプレゼンテーションを進める。						
【授業計画】						
回数	授業形態	学習課題	学習内容		備考	
1-15	演習	がん看護師に必要な能力、コミュニケーションスキルおよび人間理解	演習を通して自己理解およびコミュニケーションスキルについて演習を通して探求する。			
16-17	演習	がん看護学領域の問題の探求				
18-19	演習	がん患者に対する看護援助方法の開発				
20-21	演習	がん看護学領域の関連文献のクリティーク・討議	「文献検索」の授業で学んだ文献クリティークの方法を自分の研究課題に沿って実施しプレゼンテーションを行う。			
22-25	演習	研究課題関連演習・討議	研究計画書の作成に向けて各自が課題について検討を行う。			
26-28	演習	実践のための準備(実践の場の理解)				
29-30	演習	研究計画書検討会・作成・発表				
【評価方法、評価基準】 レポート 50%、プレゼンテーション 50%						
【テキスト】 特になし						
【参考書・資料等】 必要時指示する						
【受講、課題、資料配布等のルール】 プレゼンテーション時に必要な資料は必ず人数分を学生が準備する。						
【教員からのメッセージ】						
【オフィスアワー】						

授業科目	がん治療看護介入演習 I Advanced Nursing intervention for cancer Patient I		1 学年	後期	選 択 が ん 看 護 CNS 必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎石田 和子 酒井 禎子 樺澤三奈子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上	【氏名】 木原 好則 武藤 一郎 永井 孝一 大野 正一 桃井 明仁	【所属】 新潟県立中央病院 同上 同上 同上 同上			
【到達目標】 がん患者・家族支援に必要な内容を総合的に判断し、ケアとキュアを融合し支援するための技術（治療を受ける患者の心と体を整える支援、各症状のマネジメント、せん妄や抑うつ等の臨床判断を含む緩和ケアなど）について学内や病院演習を通し、実践できる能力を修得する。							
【授業概要】 がん治療を受ける患者の心と体を整える支援、抗がん剤治療の有害事象の症状マネジメント、疼痛、せん妄や抑うつに対する緩和ケア、緩和ケアチームのチームアプローチについて学内や病院演習を通して学習する。							
【授業計画】							
回数	授業形態	学習課題	学習内容	備考			
1	演習	治療を受ける患者の心と体を整える支援	薬物療法の投与管理 (CV と静脈穿刺など)	武藤 酒井			
2	演習	治療を受ける患者の心と体を整える支援	薬物療法の投与管理 (CV と静脈穿刺など)	武藤 酒井			
3	演習	治療を受ける患者の心と体を整える支援	看護師の支援 (末梢血管確保・抗がん剤治療)	石田			
4	演習	治療を受ける患者の心と体を整える支援	非侵襲的診断方法 (甲状腺、乳腺、腹部エコーなど)	木原 石田			
5	演習	治療を進める管理システム	組織・体制・教育・個人・曝露対策	石田			
6	演習	症状マネジメント 治療有害事象	消化器症状：悪心・嘔吐 皮膚障害 皮膚漏出 咽頭炎 呼吸困難 (判断と対処技術) ★抗がん剤治療における有害事象の 診方	永井 大野 石田			
7	演習	症状マネジメント 治療有害事象					
8	演習	症状マネジメント 治療有害事象					
9	演習	症状マネジメント 治療有害事象					
10	演習	症状マネジメント 治療有害事象					
11	演習	緩和ケア	疼痛 オピオイドローテーション	酒井			
12	演習	緩和ケア	心理・精神 せん妄、抑うつ等の臨床判断	酒井			
13	演習	緩和ケア	緩和ケアチーム	酒井			
14	演習						
15	演習	支援技術の評価と展望	まとめ	石田 酒井			
【評価方法、評価基準】 レポート 20% プレゼンテーション 20% 判断能力 30% 技術 30%を総合的に判断する。							

**【テキスト】**

随時提供する。

**【参考書・資料等】**

随時提供する。

**【受講、課題、資料配布等のルール】**

**【教員からのメッセージ】**

**【オフィスアワー】**

授業科目	がん治療看護介入演習Ⅱ Advanced Nursing intervention for cancer Patient Ⅱ		1 学年	後期	選 択 が ん 看 護 CNS 必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎石田 和子 酒井 禎子 樺澤三奈子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上	【氏名】 船越 和弘 石田 卓士	【所属】 新潟県立中央病院 同上			
【到達目標】 既習の基礎知識・技術（フィジカルアセスメント、臨床薬理学、病態生理学、がん病態生理学と支援技術）を活用し、がん患者を受け持ち、ヘルスアセスメント、臨床判断と治療看護介入など必要な内容を総合的に判断し、ケアとキュアを融合し支援する能力を修得する。							
【授業概要】 病院における演習を通してがん患者のヘルスアセスメントを習得し、化学療法や緩和診療に参加し、有害事象や苦痛の把握、治療継続の判断、有害事象や苦痛の緩和に向けた治療計画の立案、実施、評価といった一連の臨床診断過程を学ぶ。							
【授業計画】							
回数	授業形態	学習課題	学習内容			備考	
1	演習	がん患者のアセスメント：演習① がん患者のヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント				船越 石田 酒井	
2	演習	がん患者のアセスメント：演習② がん患者のヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント					
3	演習	がん患者のアセスメント：演習③ がん患者のヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント					
4	演習	がん患者のアセスメント：演習④ がん患者のヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント					
5	演習	がん患者のアセスメント：演習⑤ がん患者のヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント					
6	演習	がん患者のアセスメントの発表				石田 酒井	
7	演習	治療を受けているがん患者 治療看護介入 臨床判断と治 療的介入計画 演習①	化学療法中の患者、緩和ケアを受けている患者の有害事象、苦痛の程度を把握し、治療継続の判断、有害事象、苦痛の緩和に向けた治療計画の立案・実施・評価。			船越 石田 酒井	
8	演習	治療を受けているがん患者 治療看護介入 臨床判断と治 療的介入計画 演習②					
9	演習	治療を受けているがん患者 治療看護介入 臨床判断と治 療的介入計画 演習③					
10	演習	治療を受けているがん患者 治療看護介入 臨床判断と治 療的介入計画 演習④					
11	演習	治療を受けているがん患者 治療看護介入 臨床判断と治 療的介入計画 演習⑤	具体的には ★化学療法では、悪心・嘔吐、倦怠感など、★緩和ケアでは、オピオイドローテーションを含む。			船越 石田 樺澤	
12	演習	治療を受けているがん患者 治療看護介入 臨床判断と治 療的介入計画 演習⑥					
13	演習	治療を受けているがん患者 治療看護介入 臨床判断と治 療的介入計画 演習⑦					

14	演習	演習成果の発表と評価		石田(和) 酒井 樺澤
15	演習	課題と支援の探求		
<b>【評価方法、評価基準】</b> レポート 50% プレゼンテーション 30% 課題分析能力 20%を総合的に評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
<b>【参考書・資料等】</b>				
<b>【受講、課題、資料配布等のルール】</b>				
<b>【教員からのメッセージ】</b>				
<b>【オフィスアワー】</b>				

授業科目	がん高度実践看護実習 I Advanced Clinical Practice of Cancer Nursing I		1 学年	後期	選 択 がん看護 CNS 必修	2 週間 以上	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎石田 和子 酒井 禎子 樺澤三奈子 石岡 幸恵 石原 千晶	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上 同上 同上	【氏名】 樋口 伸子 横川史穂子 丸山 美香 柏木 夕香 西村 香 岡村 利佳 長崎 陽子 山田 希	【所属】 新潟県立中央病院 長野市民病院 新潟県立がんセンター新潟病院 がん看護専門看護師 同上 同上 同上 同上 長岡赤十字病院がん看護専門看護師			
【到達目標】 がん看護専門看護師としてのアセスメント能力・関連職種間の連携・ケアマネジメント・コンサルテーション・教育的機能を果たす能力・援助方法の開発推進等の役割、がん医療における地域連携の実際について、モデルを通して学ぶ。 看護専門職として包括的なアセスメント能力・援助方法について、倫理的判断、諸理論を活用して実習し、専門的能力を養う。また、包括的なアセスメントに基づき、複雑で対応の難しいがん患者や家族の様々な問題を焦点化し苦痛の緩和、日常生活の回復や適応を促進するために、理論を活用し看護を展開する能力を養う。							
【授業概要】 がん看護専門看護師の指導のもとに、実際のがん看護専門看護師の活動を見学し、専門職としての実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究の役割を理解し、自己の適性を高める。また、複雑で対応の難しいがん患者や家族の様々な問題を捉え、苦痛の緩和、日常生活の再構築を促進するために、既習および患者の問題解決に必要とされる看護理論を適応し、個別性を重視し、包括的なアセスメントに基づいた看護を展開する能力を養う。							
【授業計画】							
回数	授業形態	学習課題	学習内容			備考	
2 週間以上 目標達成まで	実習	1. 専門看護師としての6つの役割の理解。 2. 複雑で対応の難しい臨床事例を取り、看護過程を展開する。 3. 実習施設におけるがん医療に関する地域連携の実際を理解する。また、それに関わる看護の役割を検討する。	1. 専門看護師としての実践、調整、客観的な立場でコンサルテーションを見学し、必要な知識や技術について理解できる。 2. ケアの質向上を目指した様々な教育活動、研究活動の実際を理解できる。 3. 倫理的な問題の解決に向けて専門看護師がどのような役割を果たすのかを理解できる。 4. がん患者に生じている問題について、専門的知識をもとに情報を整理し、問題の焦点化ができる。 5. 複雑で対応の難しい臨床事例を取り、理論を用いて介入を行う。 6. 一連の看護過程の展開を行い、専門性の高い看護実践の評価を行う。 7. 実習施設における地域連携・相談支援センターの見学を通して「がん医療における地域連携と看護の役割について」レポートする。				

			<p><b>【実習場所】</b>  新潟県立中央病院 西3、東6 他  新潟県立がんセンター新潟病院  長野市民病院  長岡赤十字病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4～5日／週の割合で実習施設に行き、実践する。</li> <li>・ 役割について判断した内容について、実習指導者からスーパーバイズを受ける。</li> <li>・ 実習記録をまとめ、教員に提出し指導を受ける。</li> </ul>	
<p><b>【評価方法、評価基準】</b>  レポート 50%、プレゼンテーション 30%、課題分析能力 20%を総合的に判断する。</p>				
<p><b>【テキスト】</b></p>				
<p><b>【参考書・資料等】</b></p>				
<p><b>【受講、課題、資料配布等のルール】</b>  がん看護専門看護師コースに必要な講義および演習の単位が取得できていない場合は、実習は履修できない。(ただし、演習Ⅲおよび課題研究は除く)</p>				
<p><b>【教員からのメッセージ】</b>  長期履修生の場合、実習時期は相談に応じて行う。</p>				
<p><b>【オフィスアワー】</b></p>				



授業科目	がん高度実践看護実習Ⅱ Advanced Clinical Practice of Cancer Nursing II		1 学年	後期	選 択 が ん 看 護 CNS 必修	2 週間 以 上	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎石田 和子 酒井 禎子 樺澤三奈子 石岡 幸恵 丸山 美香 柏木 夕香 西村 香 岡村 利佳 長崎 陽子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上 同上 新潟県立がんセンター新潟病院 看護専門看護師 同上 同上 同上 同上	【氏名】 清水奈緒美 樋口 伸子	【所属】 神奈川県立がんセンター がん看護専門看護師 新潟県立中央病院 がん看護専門看護師			
<b>【到達目標】</b> がん看護の特殊性を踏まえて、看護専門職としての包括的なアセスメント能力・関連職種間の連携・ケアマネジメント・コンサルテーション・教育的機能を果たす能力・援助方法の開発推進等の役割について、論理的判断・諸理論を活用して実習し、専門的・総合的能力を養う。 実習Ⅰを発展させ、スーパービジョンを受けながら、臨床においてがん看護専門看護師として6つの役割における相談・調整・看護職への教育、およびがん医療における地域連携活動に参加し、問題解決に向けた総合的な実践能力を養う。							
<b>【授業概要】</b> 組織集団の特徴を理解し、横断的な活動の進め方を念頭に入れ、病棟や外来など集団に必要なニーズを把握し、カンファレンスや集団を対象に看護職への教育活動を実施・評価する。 コンサルティ能力アセスメントからはじまるコンサルテーション活動を意識しコンサルテーションを行う。 病棟内、横断的活動、チーム内、地域連携など組織内外での調整を実施し、がん看護専門看護師に必要な能力を養う。							
<b>【授業計画】</b>							
回数	授業形態	学習課題	学習内容		備考		
2 週間以上	実習	がん看護専門看護師としての役割(相談・調整・教育)を実践する。	1. コンサルテーション活動ができる。(1例) 2. 調整活動ができる。(1例) 3. 看護職への教育活動ができる。(1例) 4. がん医療における地域連携活動ができる。 5. 専門看護師としての役割開発と課題について考察する。  <b>【実習場所】</b> 神奈川県立がんセンター 新潟県立がんセンター新潟病院 新潟県立中央病院  ・4～5日/週の割合で実習施設に行き、実践する。 ・役割について判断した内容について、実習指導者からスーパーバイズを受ける。  ・実習記録をまとめ、教員に提出し指導を受ける。				

**【評価方法、評価基準】**

レポート 50%、プレゼンテーション 30%、課題分析能力 20%を総合的に判断する。

**【テキスト】**

**【参考書・資料等】**

**【受講、課題、資料配布等のルール】**

長期履修生の場合、実習時期は相談に応じて行う。  
実習Ⅱを履修する場合は、実習Ⅰを履修し、単位認定されていること。

**【教員からのメッセージ】**

**【オフィスアワー】**

授業科目	がん高度実践看護実習Ⅲ Advanced Clinical Practice of Cancer Nursing Ⅲ	2 学年	前期	選 択 が ん 看 護 CNS 必修	2 週間 以 上	2 単位																																											
担当教員	<table border="0"> <tr> <td>【氏名】</td> <td>【所属】</td> <td>【氏名】</td> <td>【所属】</td> </tr> <tr> <td>◎石田 和子</td> <td>新潟県立看護大学</td> <td>樋口 伸子</td> <td>新潟県立中央病院 がん看護専門看護師</td> </tr> <tr> <td>酒井 禎子</td> <td>同上</td> <td>清水奈緒美</td> <td>神奈川県立がんセンター がん看護専門看護師</td> </tr> <tr> <td>樺澤三奈子</td> <td>同上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>石岡 幸恵</td> <td>同上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>石原 千晶</td> <td>同上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>丸山 美香</td> <td>新潟県立がんセンター新潟病院</td> <td>がん看護専門看護師</td> <td></td> </tr> <tr> <td>柏木 夕香</td> <td>同上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>西村 香</td> <td>同上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>岡村 利佳</td> <td>同上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>長崎 陽子</td> <td>同上</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	【氏名】	【所属】	【氏名】	【所属】	◎石田 和子	新潟県立看護大学	樋口 伸子	新潟県立中央病院 がん看護専門看護師	酒井 禎子	同上	清水奈緒美	神奈川県立がんセンター がん看護専門看護師	樺澤三奈子	同上			石岡 幸恵	同上			石原 千晶	同上			丸山 美香	新潟県立がんセンター新潟病院	がん看護専門看護師		柏木 夕香	同上			西村 香	同上			岡村 利佳	同上			長崎 陽子	同上						
【氏名】	【所属】	【氏名】	【所属】																																														
◎石田 和子	新潟県立看護大学	樋口 伸子	新潟県立中央病院 がん看護専門看護師																																														
酒井 禎子	同上	清水奈緒美	神奈川県立がんセンター がん看護専門看護師																																														
樺澤三奈子	同上																																																
石岡 幸恵	同上																																																
石原 千晶	同上																																																
丸山 美香	新潟県立がんセンター新潟病院	がん看護専門看護師																																															
柏木 夕香	同上																																																
西村 香	同上																																																
岡村 利佳	同上																																																
長崎 陽子	同上																																																
<p><b>【到達目標】</b></p> <p>がん看護の特殊性を踏まえて、看護専門職としての包括的なアセスメント能力・関連職種間の連携・ケアマネジメント・コンサルテーション・教育的機能を果たす能力・援助方法の開発推進等の役割について、論理的判断・諸理論を活用して実習し、専門的・総合的能力を養う。</p> <p>実習Ⅰ・Ⅱを発展させ、スーパーバイズを受けながら、がん看護専門看護師としての6つの役割における実践・倫理調整・相談・教育・研究指導を実践し、問題解決に向けた総合的な実践能力を養う。</p>																																																	
<p><b>【授業概要】</b></p> <p>組織集団の特徴を理解し、病棟や外来など集団に必要なニーズを把握し、カンファレンスや集団を対象に専門職への教育活動を実施し評価する。問題解決のためにコンサルテーションを行い、短時間で実践できる能力を養う。</p> <p>倫理的問題をアセスメントし、倫理的解決方法に基づき、倫理調整を行うことができる。さらに、研究活動に参加し、スタッフの研究能力を引き出すことができる。</p> <p>臨床において、がん看護専門看護師としての6つの役割を実践する能力を習得する。</p>																																																	
<b>【授業計画】</b>																																																	
回数	授業形態	学習課題	学習内容		備考																																												
2 週間以上 目標達成まで	実習	がん看護専門看護師としての役割（実践・倫理調整・相談・教育・研究）を実践する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践活動ができる。(1例以上)</li> <li>2. がん高度実践看護学実習Ⅱを踏まえ、より効果的にコンサルテーション活動ができる。(1例以上)</li> <li>3. がん高度実践看護学実習Ⅱを踏まえ、より広い対象への教育活動ができる。(1例以上)</li> <li>4. 研究活動の指導ができる。(研究活動機会1回以上)</li> <li>5. 倫理調整ができる。(1例以上)</li> <li>6. 専門看護師としての役割開発と課題についてレポートする。</li> </ol> <p><b>【実習場所】</b> 新潟県立中央病院 新潟県立がんセンター新潟病院 神奈川県立がんセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4～5日/週の割合で実習施設に行き、実践する。</li> <li>・役割について判断した内容について、実習指導者からスーパーバイズを受ける。</li> <li>・実習記録をまとめ、教員に提出し指導を受ける。</li> </ul>																																														

**【評価方法、評価基準】**

レポート 50%、プレゼンテーション 30%、課題分析能力 20%を総合的に判断する。

**【テキスト】**

**【参考書・資料等】**

**【受講、課題、資料配布等のルール】**

長期履修生の場合、実習時期は相談に応じて行う。  
実習Ⅲを履修する場合は、実習Ⅰ・Ⅱを履修し、単位認定されていること。

**【教員からのメッセージ】**

**【オフィスアワー】**

授業科目	がん高度実践看護実習Ⅳ Advanced Clinical Practice of Cancer Nursing Ⅳ		2 学年	前期	選 択 が ん 看 護 CNS 必修	2 週間 以 上	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎石田 和子 酒井 禎子 樺澤三奈子 石岡 幸恵 石原 千晶 丸山 美香 柏木 夕香 西村 香 岡村 利佳 長崎 陽子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上 同上 同上 新潟県立がんセンター新潟病院 同上 同上 同上 同上	【氏名】 樋口 伸子 清水奈緒美	【所属】 新潟県立中央病院 がん看護専門看護師 神奈川県立がんセンター がん看護専門看護師			
【到達目標】 がんの進展や治療に伴う苦痛を抱えている患者に対して、キュアとケアを融合して支援する能力を養う。 がんの治療、経過、状況・場面における苦痛緩和のための症状コントロールと治療を遂行するために必要な医師と協働する医療処置について卓越した判断能力やケア能力を養う。							
【授業概要】 がんの進展またはがん治療を受けている患者の身体症状や有害事象に対するアセスメント能力、高度な臨床判断能力を身につけ、治療の遂行や適切な症状コントロール（主に呼吸器・消化器症状）の支援ができるよう、がん治療医のもとで実習を行う。							
【授業計画】							
回数	授業形態	学習課題	学習内容			備考	
2 週間以上 目標達成まで	実習	がんの進展や治療に伴う苦痛緩和のための高度な症状コントロール（主に呼吸器・消化器症状）能力と臨床判断能力を養う。また、症状コントロールのために必要な医師と協働する医療処置を習得する。	1. 治療を受ける患者の心と体を整える支援ができる。 2. がん患者の苦痛緩和に関わる身体管理と治療遂行支援ができる。 3. がん薬物療法に関わる身体管理と治療遂行支援活動ができる。 4. 医学的根拠や臨床判断に基づいた医行為の実施を強化する活動ができる。  【実習場所】 新潟県立中央病院 新潟県立がんセンター新潟病院  ・4～5日/週の割合で実習施設に行き、実践する。 ・フィジカルアセスメント、検査指示、治療計画や必要な医療処置について、担当医師からスーパーバイズを受けながら実習を行う。 ・実習記録をまとめ、教員に提出し指導を受ける。				
【評価方法、評価基準】 レポート 50%、プレゼンテーション 30%、課題分析能力 20%を総合的に判断する。							
【テキスト】							
【参考書・資料等】							

**【受講、課題、資料配布等のルール】**

長期履修生の場合、実習時期は相談に応じて行う。  
実習Ⅳを履修する場合は、実習Ⅰ～Ⅲを履修し、単位認定されていること。

**【教員からのメッセージ】**

**【オフィスアワー】**

授業科目	がん高度実践看護実習V Advanced Clinical Practice of Cancer Nursing V		2 学年	前期	選 択 が ん 看 護 CNS 必修	2 週間 以 上	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎石田 和子 酒井 禎子 樺澤三奈子 石岡 幸恵 石原 千晶 丸山 美香 柏木 夕香 西村 香 岡村 利佳 長崎 陽子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上 同上 同上 新潟県立がんセンター新潟病院 同上 同上 同上 同上	【氏名】 樋口 伸子 清水奈緒美	【所属】 新潟県立中央病院 がん看護専門看護師 神奈川県立がんセンター がん看護専門看護師			
【到達目標】 がんの進展や治療に伴う苦痛を抱えている患者に対して、キュアとケアを融合して支援する能力を養う。 化学療法と放射線療法に対する有害事象等に関わる高度な症状コントロールと、治療を遂行するために必要な医師と協働する医療処置について、卓越した判断能力やケア能力を養う。							
【授業概要】 がん化学療法や放射線療法を受けている患者の身体症状や有害事象に対するアセスメント能力、高度な臨床判断能力を身につけ、治療の遂行や適切な症状コントロールの支援ができるよう、がん治療医のもとで実習を行う。							
【授業計画】							
回数	授業形態	学習課題	学習内容			備考	
2 週間以上 目標達成まで	実習	がん化学療法と放射線療法に関わる臨床判断と高度な症状コントロール能力を養う。また、当該領域において治療を遂行するために必要な医師と協働する医療処置を習得する。	1. 治療を受ける患者の心と体を整える支援ができる。 2. 化学療法や放射線療法に関わる症状コントロールと治療遂行の支援ができる。 3. 医学的根拠や臨床判断に基づいた医行為の実施を強化する活動ができる。  【実習場所】 新潟県立中央病院 新潟県立がんセンター新潟病院  ・4～5日/週の割合で実習施設に行き、実践する。 ・フィジカルアセスメント、検査指示、治療計画や必要な医療処置について、担当医師からスーパーバイズを受けながら実習を行う。 ・実習記録をまとめ、教員に提出し指導を受ける。				
【評価方法、評価基準】 レポート 50%、プレゼンテーション 30%、課題分析能力 20%を総合的に判断する。							
【テキスト】							

**【参考書・資料等】**

**【受講、課題、資料配布等のルール】**

長期履修生の場合、実習時期は相談に応じて行う。  
実習Ⅴを履修する場合は、実習Ⅰ～Ⅳを履修し、単位認定されていること。

**【教員からのメッセージ】**

**【オフィスアワー】**